



スフィンクスもびっくり!?



編集発行
羽津北小学校
PTA広報部
印刷
阿竹印刷工業(株)

第 22 号

運動会

運動会を終えて

小川 美和子

雨に降られて、やっとできた運動会。でも、ほんとうに秋晴れのよい日になって、子どもたちもはりきってやれたと思います。

延期になった週は雨も多く、最後の練習も十分時間がとれなかったにもかかわらず、当日の子どもたちの演技は、最高の出来でした。ここの一番、本番に強いという現代つ子の特徴でしょうか。

運動会終了後、子どもたちが書いた作文の中にこういう文がありました。

「私は準備係になったので、七時に家を出ました。……はじめての仕事をいわれた時は、うれしくて、うれしくてたまりませんでした。」

やる気満々、純情な気持ちが表れています。私も、これを読んで本当にうれしく思いました。



お父さんも お母さんも がんばった

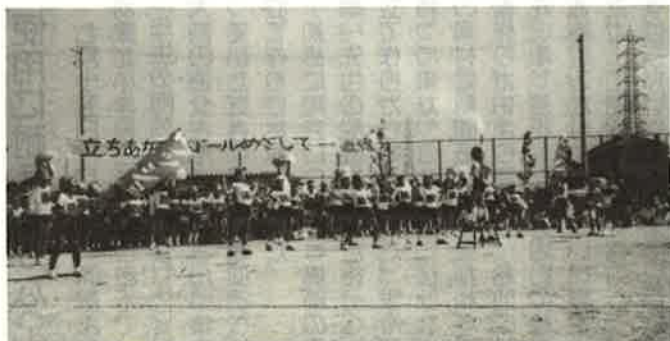
初めての運動会

一ノ三 上野 恵美子

ぬげるような青空の下、待ちに待っていた運動会が行なわれました。

初めての運動会で、特に目を引いたのは、随所に縦割り教育が敷かれている事でした。高学年と一緒に練習は、一年生にとっては、少々、しんどいようでしたが、応援合戦、ドレミの歌等、立派に出来たと思います。

また、高学年による綱引きは観ていても力が入りました。それ迄劣勢だった黄組が圧勝したのも痛快でした。皆の気持ちが、一つにな



恵もピッタリ 三・三・七拍子

今号のこころ

- 天高く馬肥ゆる秋
- 暑さ寒さも彼岸まで
- 秋の鹿は笛に鳴る
- …弱点に乗じられやすいこと
- 秋の日はつるべ落とし
- …秋の日は早く沈むこと

なつての組立て体操も、練習の成果が遺憾無く発揮され、感動しました。

勝敗はともかく、各自が持てる力を存分に発揮し、さすがしい秋空の様な運動会でした。

何故陶芸教室なの？

学年部 菊池 栄子

七月十五日の一年生を皮切りに始まった親子陶芸教室も、九月八日の土鈴作り（二年生）で締めくくりになりました。PTA会員の皆様からお忙しい中御協力頂き、感謝しております。

七月十五日の一年生を皮切りに始まった親子陶芸教室も多数当地区で活躍しております。このような地場産業を理解し、その伝統を正しく受け継いでいくことが、今日強く求められています。学校側も「特色ある学校づくり」として陶芸を挙げており、そのための教室が今年度中に建設されることが決まっております。教室内には窯が据えられ、今回の作品もそこで焼き上げて、作る喜びを満喫して頂く予定です。森日光さんや堀野さんに、乾燥から焼き上げまでお世話して頂いている次第です。

出るが、未来の名工

— 親子陶芸教室 —

一年生の土鈴作りは、少し難しいと思っていました。いざ作ってみると、良くとまって楽しい作品ができていました。土鈴という事で、良い音が出るように気をつけて焼き上げたいつもりですが、中の空洞によって音も違いますので、作品展示の折は注意して聞きたいと思っております。



比べてみてほしいと思います。陶芸の面白さは、土そのものを知る事に始まると思えます。次に上釉、そして焼成だと思えます。それぞれの工程いかに変化しますし、窯出しまで出来上がりはわかりません。土は既製の粘土でなくとも、近くの山で土をとってきて十分に作る事ができます。これから土に親しんでいただきます。

思い通りに出来たかな？

講師 堀野 昇呉

作品展示までの予定は次のとおりです。

- 素焼 九月十三、十四日
- 絵付・上釉・本焼 十月十日
- 展示 十一月十七日

素焼の段階で何点か破損してしまいました。悪しからず御了解下さい。



お父さん、こうやって作るのよ

さい。また、作品の絵付けは、当初学校で児童が自ら行う予定でしたが、仕事の配置がうまくいかず、一年生の作品を除いて、PTA役員の側で実施しました。思い描いていた色彩と異なるかも知れませんが、御容赦下さい。

でニギロ使用

しました。

慣れない手

つきで土と奮

闘の末「花器」

らしきものが

やっと出来上

がりました。

ほかの方の

を見せて頂く

と、形もいろ

いろで、つぼ

の形やら、手

を広げた形の

やら、それぞ

れユニークで

すばらしい作

品が作られた

ようです。

これらは、

秋の作品展に

展示されるそ

うですが、どんな

色になつて焼き

上がつてくるの

か、楽しみ半分

、不安半分(？)

で、待つてあります。

(加藤)

使用に耐えるかな？

七月十五日、月曜日一時半より羽津北小学校一階、渡り廊下で、一年生の陶芸教室が行われました。大勢のお父さん、お母さんに集まっていたので、親子で絵皿とペン立て作り挑戦しました。

初めに陶芸について、講師の森準一先生の説明を聞いた後、ペン立て作りから始めました。家から持ってきたジューズ缶、ビンなどの素材に新聞紙をまき、ねんどで型作りが始まりました。絵皿には花、車、漫画など思い思いの絵を書き、みんな、なれない作業でしたが、一時間位で親子協力して、すばらしい作品が出来上がりました。十一月の作品展が楽しみです。

(藤井)

楽しい土鈴ができたよ

一学期が始まってすぐの日曜日、お天気にも恵まれ、土鈴作りが行なわれました。当日は、地元で活躍しておられる陶芸家の堀野さんに講師をお願いしました。

初めて、土をいじる方が多いなか、いろいろアドバイスを受け、短い時間で、動物、人形、さかな、くだものなど、本当に、個性豊かな作品が出来上がりました。

絵付けは、子供たちがします。また一段とすばらしい作品にあがることと思いい、11月の作品展を、親子で楽しみたいと思っております。(不破)

待ち遠しい作品展 楽しみ半分、不安半分

七月十七日の午後、五年生の学年行事として、陶芸教室が行なわれました。五年生のテーマは「花器」といって、信楽の土を親子

自然の中で過ごした二日間

野外特別活動
— 六年生 —

山 登 り

一組 奥田 愛

雲田峰（雲田山）に向かって出発。最初のじやり道はまだ広い方で、だんだん細い道になりました。「すべらないように気をつけて。」と言われていたので、「だいたい道が悪いな。」と思っていれば予想通りでした。

最初は上りが多かつたけど、後の方は下りもありました。前がとまると、「頂上や」と思ったら休けいでがっくりしました。こんな早くつくわけないと思いつながら早くついてほしかつたのです。

コリラ山をぬけると登っていくだけです。「どんな頂上かな。」とワクワクしていたのに、みんな頂上へ行くと、すぐ帰ってくるのです。実際にいってみたら、本当にせまく、周りは草ぼうぼうで石がつんであるだけで、がっかりしました。私も石をつんできました。

忘れられない キャンプファイヤー

一組 森 勇志

野外活動の日は、みんなの心がけがよくて、とても良い天気でした。そのためキャンプファイヤーが出来た。入場する時みんながさわわして何回もやり直しをした。

それは空を見上げると流れ星がたくさん見えたからだ。四日市とちくだからまるでプラネタリアムに行つたみたいだった。ようやくきちんと入場が出来、大きな円が出



燃えよ！ 友情の炎

来ました。ファイヤーに火がつき、色々な出し物がありとてもにぎやかだった。その時、西の空から南の方へキラキラ光つた物が、ゆつくり流れて行くのが見えた。だれかが「ハレーすい星や」と言う声が聞こえた。しかし、それは人工衛星の残がいだった。でもきれいだった。忘れられないキャンプファイヤーだった。

楽しかつた

キャンプファイヤー

三組 大西 理恵

私達は、八日と九日に、野外特別活動に行つてきた。一泊二日でも短かつたけど、楽しかつた。その中で一番よかつたのは、キャンプファイヤーだった。

入場する時に後ろから一番目だったので、とてもわかつた。入場して、点火されたら、こわいのも忘れて楽しんだ。私達は出し物が一番最初だった。そのあと、一組一組と出し物をした。ソ連の打ち上げたロケットも飛び入り参加だった。フォークワンズもとても楽しかつた。退場した後、みんながゆつれいだといつていたものの体がわかりやつとのことです。

八日の夜のキャンプファイヤー。だれにも自まんでできる最高のキャンプファイヤー



ハレーすい星？

—で、よい思い出がつくれ



努力の作品展

中山 富士子

長かつた夏休みも終わり、子供達も元気に学校生活に戻つた。二学期は、運動会に、遠足にと、楽しい行事も沢山あり、忙しい時期でもある。九月初旬、体育館にて、「夏休み作品展」があり、私も最後の日に見に出かけた。時間があつたので一つ一つをゆつくりと、汗をかきながら見せてもらった。皆自分の作つたものが一番だといいたげに並べられている。近所やクラスの子の作品を見つけると、



羽津北水族館

した後が見られる。まさに努力の作品ばかりだった。



「母と女教師の語る会」を終えて

高倉 芳子

第四回母と女教師の語る会が、九月十四日（土）午後、教養部主催で行われました。

今回は、北勢福祉事務所の日江井幸治先生を講師にお願ひして、学校・家庭における子ども問題をテーマに、講演をしていただきました。

今春まで北勢児童相談所におられた先生は、子ども達、それも問題児と言われる子ではなく、ごく普通の子の生活の中に、将来心配する点が、芽ばえていると厳しい見方をされてきました。母親として反省させられることばかりでした。

その後、三つのグループに分かれての分科会になりました。テーマは決めずに、文字どおり母親と先生との話し合いです。

問題になつた点をいくつか拾つてみますと、ナイフの使えない子、清掃のホウキの使えない子、これらは、家庭のしつけと深くかかわつています。また、狭い範囲の中でしか遊べない子、テレビ相手に騒いでいる子を見るとき、昔の力キ大将はいないのかとさみしい思いがします。

教師と親の関係も、形式的でなく、日頃から本音で話し合えるようになりたいと思います。

親も子も迷い悩んでいる。今回の短い話し合いで問題を解決することは出来ませんが、何か一つでも手がかりをと思います。

ワイイぼくらの遊具がふえたぞ!!

ミニアスレチック作り

八月二十四日、間もなく夏休みも終わろうというのに、相変わらずの真夏日です。この暑い中、先生方始め、本部役員、環境部員、PTA有志の方々、総勢百人以上は多過ぎるかな)によるミニアスレチック作りが行われました。児童達のはしゃぎまわる姿を思い浮かべながら、地下一メートルを掘る大仕事です。つるはしもなかなか通さないような堅い土を掘り抜くと湧水が出て、泥まみれの中の重労働でした。先生方により前もって

カラフルに化粧を施された、古電柱が次々に埋められ、平行棒が行儀よく並びました。四時間及以上汗の結晶が見事に出来上がったのは、夏の陽が落ちかける頃でした。

「このような作業にどうして児童を参加させないのでですか」とお聞きしたところ、「今の児童は道具を使えなくて危険だから」とのことでした。確かに今の子供は恵まれているなあと思いつつも、自然と遊んで何かを身につけていく事の

少ないのが寂しいような気もしました。

先生方と父母の協力で出来上がった傑作遊具だけど、子供達の成長に少しでも役立つものなら幸いだと思いつつ、心地よい汗を流した一時でした。子供達の中に「ありがとう」の感謝の気持ちを持って遊べる子が何人いるのかな...? (環境部・香西)



文明の利器と



人海戦術で

近況紹介

元気な赤ちゃんを!!

- ◇鈴木真左子先生 十一月五日出産予定
- ◇老谷洋子先生 十一月六日出産予定

両先生の代わりです よろしく

- ◇加藤明佳先生(四年一組)
- ◇金川美鈴先生(一年一組)

松田先生、国体出場

第40回国民体育大会が九月十五日から四日間、鳥取市を中心に開かれましたが、ヨット競技の数少ない三重県代表として、本校の松田みどり先生が出場されました。先生の余り知られない一面です。成績の方は...先生に直接お確かめ頂きましょう。

◎ 本校のPTA総会は毎年平日に行われているが、ある県ではより多くの親が出席できるように日曜日開催されるのが常となつて

いると聞く。本校でも日曜日の開催が可能なら、この時両親学級をし、その後総会がいいと思う。新学期でもあるし、父親が担任の先生の顔も知らないという事も無くなり、今より学校教育に関心を示すのではないだろうか。勿論、理想は両親そろつての参加だが。

私の提案

め」体罰」等——アンケート、インタビュー、その他色々して載せたら、より充実して魅力ある機関紙になると思う。

◎ 以前、新聞の投書欄で走るのが遅く嫌いな学生が、運動会のタイム別に分けるのだけは絶対に止めて欲しい、それは学年中で一番のろまで、その恥を人前にさらす事になるからという記事を見たことがある。楽しいはずの運動会も見方によつては暗くイヤな行事になるのだなあと感じた。本校での百メートル走での位置付けも一度検討願いたい。

◎ こんな事を書くこと、まったく「けやき」を編集して下さる人々には申し訳ないが、毎号変わればえない、行われた報告記事で殆ど紙面が埋めつくされている。報告記事も結構だが、もう少し独自の物を——例えば今、問題の「いじ

感じた事をありのままに記しました。頭に力チンとくるかも知れませんが、少しでも良くなつて欲しいという思いです。その所を汲んで下さるとうれしいです。

お知らせ

近藤巧先生

講演会講師決まる!!

十一月十七日の両親学級時に講演会が開かれますが、講師の先生が表記のとおり決まりました。

近藤先生は三重県北勢教育事務所教育課長を勤められ、深刻化する教育問題に腐心しておられます。ともすれば堅苦しくなりがちな教育問題を、ユーモア混じえてお話になられます。示唆に富むところが多いかと思えます。

多数の御来聴をお願いします。

編集後記

◎ 運動会の組立体操はみごとでした。練習の余りのお粗末さに、先生方も本番の演技は中止しようかと真剣に考えたそうです。本番に強い現代つ子の面目躍如というところでしようか。

◎ 本校の松田先生が国体に出場されました。県代表になるのも大変なことですが、もつと誇つてもよいのではないでしようか。

◎ 会員からの希望もあり、格言・ことわざを掲載しました。意味や故事来歴等について、親子の話題提供になれば幸いです。